

# 児童生徒と向き合う時間を確保するための 校務の情報化の推進

## — 情報の一元管理と活用を目指した「みやぎモデル」の提言を通して —

### 研究の概要

社会環境が急激に変化する中で、学校が抱える課題も増加しており、解決するためには教員が児童生徒と向き合う時間を十分に確保することが求められています。

本研究は宮城県の公立学校における校務処理の現状を把握し、情報の一元管理と活用を目指した「みやぎモデル」を提言することで、校務の軽減と効率化を図り、児童生徒と向き合う時間を確保することを目指します。

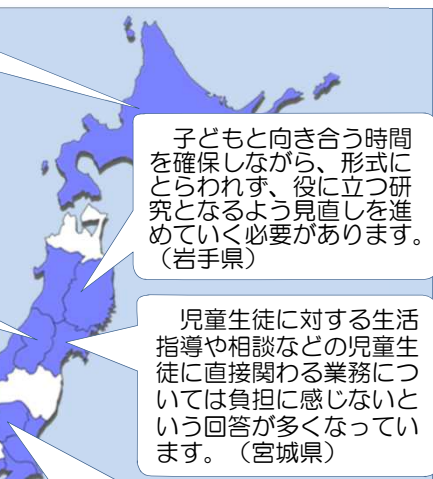


## 今、児童生徒と向き合う時間を確保することが求められています。

教員が子どもと向き合う時間を一層確保できるよう、授業支援や環境整備などのボランティアを行う人材を派遣しています。（北海道）

教師が心にゆとりをもって、子どもとじっくり向き合うことができる教育の実現に向け、学校・家庭・地域が一緒になって、教師の負担感・多忙感を軽減するための環境づくりを進めることが必要です。（山形県）

①組織体制の改善②教職員の働き方の改革③業務の効率化④学校支援体制の改善の4つの視点から、研究を深め、それぞれ子どもと向き合う時間の確保につながる貴重な成果をあげています。（岡山県）



直接子どもを指導する業務以外の事務処理等を事務室に集めるとともに、教諭をサポートする事務処理専門の非常勤職員（退職職員等）を導入します。（熊本県）

これは、全国の各教育委員会が作成した教員の勤務負担軽減に関する調査書や実践事例の一部です。ほとんどの教育委員会が、児童生徒と向き合う時間の確保を目的の一つとして挙げています。学習指導要領の理念である「生きる力」の育成を実現させていく点からも、学校では児童生徒と向き合う時間を確保することが求められています。

教員の勤務負担軽減に関する教育委員会における取組（文部科学省,2010）より

## 校務の情報化を推進することで、事務的な校務が効率化されます。

校務負担を軽減する一つの方法として、校務の情報化の取組が各自治体で進められています。その中でも先進的な実践事例として、校務支援システムを導入した取組が注目されています。熊本県では教員が生徒と向き合う時間が1日当たり30分以上増加したとしています。

指導要録

調査書

学校日誌

児童生徒と向き合う時間が1日当たり30分以上増加

熊本県の取組より

## 宮城県に最適な校務支援システムと、導入に向けた取組をまとめました。

**調査書**

学校	学年	調査書	作成	提出
宮城県立川崎高等学校	平成23年度	1	1	1
宮城県立大崎高等学校	平成23年度	1	1	1
宮城県立二子山高等学校	平成23年度	1	1	1

**文書の電子化**

**学校間の連携**

**学校**

**学校内の校務**

管理職  
(校長等)

教員  
(教諭 養護教諭等)

**ネットワークで共有**

本研究では、宮城県に最適な校務支援システムと、導入に向けた取組を「みやぎモデル」としてまとめました。





## 校務処理の負担軽減と効率化



### 校務支援システムの機能

- 【児童生徒情報管理】**
  - 出席簿
  - 各種名簿作成
  - 児童生徒情報共有
  - 成績管理
  - ・指導要録 ・調査書
  - ・通知票 ・個人カルテ
- 【保健管理】**
  - 健康診断票
  - 保健日誌
  - 各種統計
  - 受診通知書
- 【連絡管理】**
  - 掲示板
  - 会議室
  - 個人連絡
  - 回覧板
  - 簡易アンケート
  - 文書フォルダ
  - 教員用個人フォルダ
- 【校務管理】**
  - 学校日誌
  - 時間割
  - 時数・週案
  - 行事予定
  - 出張
  - 会計

#### 【校内での活用効果】

宮城県版校務支援システムを活用することで、作成された文章や数値の転記作業が大幅に削減されます。例えば、出欠に関する情報は出席簿に記入された後、「職員室黒板」「学校日誌」「保健日誌」「成績一覧表」「通知票」「指導要録」などに教員が転記していましたが、電子化されたデータが各種帳票に自動転記されるため、転記にかかる作業時間はなくなり、転記ミスの心配もなくなります。

安心して使うことができそうですね！



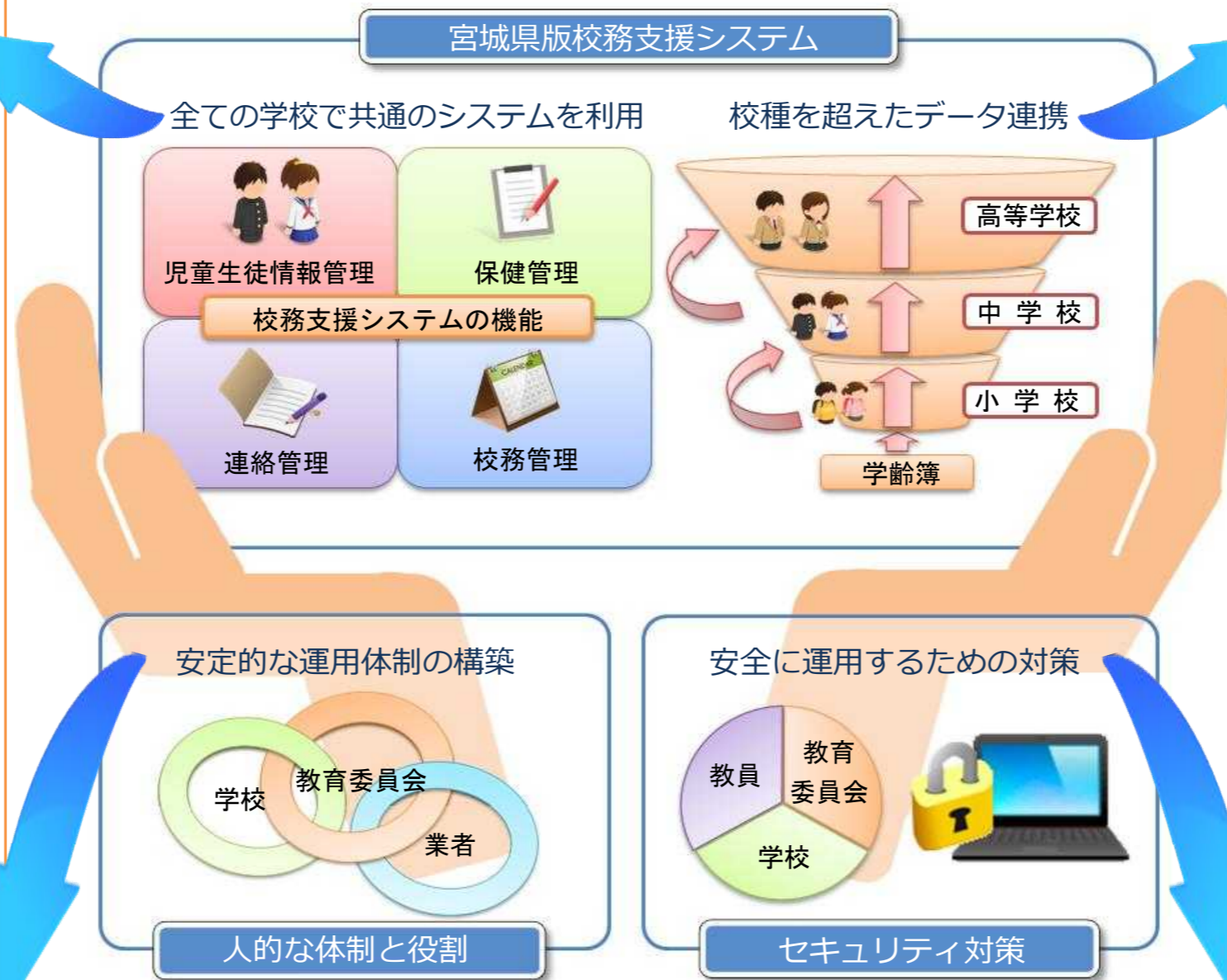
### 安定的な運用体制の構築

宮城県版校務支援システムを安定的に運用するために、学校と教育委員会が取り組むべき内容をまとめました。教育委員会は「校務支援システム導入検討委員会の設置」や「各種研修会の実施」、学校では「校内体制の検討」などについて、導入から運用に向けたモデルを示しています。

### 「みやぎモデル」とは

「みやぎモデル」は「小学校、中学校及び高等学校において統一した宮城県版校務支援システムを使用し、電子データがネットワークを介して複数の学校で効果的に活用されている姿」で、「宮城県版校務支援システム」「人的な体制と役割」「セキュリティ対策」から構成されます。

### 宮城県版校務支援システム



## 児童生徒と向き合う時間の確保



### 校種を超えたデータ連携

県内で統一した宮城県版校務支援システムを使用することで、異なる校種間のデータ連携が容易となることから、校種を超えた活用が可能となります。これまでは、教育委員会が作成した「学齢簿」を基に名簿として電子化し、それに出欠情報や成績情報、活動状況を蓄積していくことで指導要録や調査書、健康診断票を作成し、紙媒体で進学先に送付してきました。これを電子化されたデータとして進学先へ送付することで、年度末や年度始めの校務負担を大幅に軽減することができます。転校に関する手続きも同様で、宮城県内であればシステム上での転校の処理が可能となります。

#### 【校種を超えた活用効果】

宮城県版校務支援システムの利用で、指導要録や調査書、健康診断票といった進学や転校時に必要な書類を電子データとして送付することが可能となります。また、県内で統一した校務処理が可能となるため、教員は人事異動で転任した先でもシステムを学び直すことなく校務を行えるようになります。さらに、導入初年度の負担感の増加や、費用面での課題にも対応することが可能となります。

個人情報の管理もこれで大丈夫だね！



### 安全に運用するための対策

「みやぎモデル」で扱う個人情報を含めた電子データを安全に管理するため、教育委員会、学校、教員が遵守すべき事柄をまとめました。教育委員会においてはインフラ整備、学校ではUSBメモリの使用制限、教員は「教員用個人フォルダ」へのデータ保存など、それぞれの立場で取り組むべき内容を示しています。

# 校務支援システムの導入で校務処理が効率化されます。

## これまで



教室で記入

学級担任が教室で出欠簿に記入した後、学校日誌や保健日誌など様々な書類へ担当者ごとに転記しています。

## 出欠の記録の流れ

### 担当者による転記作業



職員室黒板



成績一覧表



学校日誌



通知票



保健日誌



指導要録

## システム導入後



教室で入力



職員室で入力

携帯端末やパソコンに入力することで、各種書類へ自動転記されます。

### 自動転記による効率化

宮城県版校務支援システム

出席簿

通知票

保健日誌

指導要録

学校日誌

各種報告書

### 放課後は…



学習相談



部活動指導

放課後などの空いた時間を児童生徒の指導に使うことができるようになります。

## 全ての学校に校務支援システムを導入することを提言します。

年度 2012年 2013年 2014年 2015年 2016年 2017年 2018年 2019年 2020年 2021年

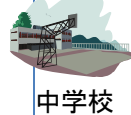


高等学校

STEP1  
導入検討段階

STEP2  
導入段階

STEP3  
活用段階



中学校

STEP1  
導入検討段階

STEP2  
導入段階

STEP3  
活用段階



小学校

STEP1  
導入検討段階

STEP2  
導入段階

STEP3  
活用段階

### 段階的・計画的な導入

「みやぎモデル」で想定する宮城県版校務支援システムは、県内全ての学校に導入することで、最大限に効果を発揮します。そのため、校種毎に段階的かつ計画的に導入することを提言します。

## 宮城県教育研修センター

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉393  
電話：022-227-2626 FAX：022-213-8635  
URL <http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/>

平成24年度情報教育研究グループ  
専門研究員 宮城県古川高等学校  
岩沼市立岩沼北中学校  
角田市立角田中学校  
指導主事 情報教育班  
情報教育班  
情報教育班

佐藤 淳  
鈴木 裕  
伊藤 進  
大高 和義  
鹿野田忠之  
日野口 香